

ハイスクールビジョン推進プログラム

平成29年（2017年）1月
令和4年（2022年）3月一部改定
広島市教育委員会

目 次

	頁
<u>I ハイスクールビジョン推進プログラムの策定に当たって</u>	1
<u>II 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成</u>	4
<u>III 多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな対応</u>	6
<u>IV 各市立高等学校における教育の方針</u>	8
1 全日制課程	
(1) 普通科（普通・専門コース）	
① 基町高等学校 普通科（普通・創造表現コース）	8
② 舟入高等学校 普通科（普通・国際コミュニケーションコース）	10
③ 沼田高等学校 普通科（普通・体育コース）	12
④ 美鈴が丘高等学校 普通科（普通）	14
(2) 専門学科（商業科・工業科）	
① 広島商業高等学校 みらい商業科（流通マーケティング・観光ビジネス・広報プロデュース・金融ライフデザイン・ビジネス実務・会計マネジメント・ITエンジニア・ネットビジネスコース）	16
② 広島工業高等学校 工業科（機械・自動車・電気・情報電子・建築・環境設備科）	18
2 定時制課程及び通信制課程	
(1) 広島みらい創生高等学校	20
3 中高一貫教育校	
(1) 広島中等教育学校	22
<u>V 教育委員会の役割</u>	24
1 市立高等学校における教育の質の確保・向上に向けた取組	
2 20年後を見据えた市立高等学校の在り方の検討	

I ハイスクールビジョン推進プログラムの策定に当たって

1 プログラム策定の目的と経緯

本市教育委員会では、平成27年度（2015年度）の20年後となる令和17年度（2035年度）以降、生徒数が大幅に減少するとの推計に基づき、20年後の市立高等学校の姿をイメージしつつ、これまで推進してきた「魅力ある高校づくり」の一層の充実に取り組むため、市立高等学校の将来構想となる「広島市ハイスクールビジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定し、今後の本市高等学校教育の基本方針を示しました。

「ハイスクールビジョン推進プログラム」（以下「推進プログラム」という。）は、本ビジョンの行動計画として策定するものです。

策定に当たり、平成27年度から、各市立高等学校において「ハイスクールビジョン推進プログラム検討委員会（各学校において名称は異なる）」を設置し、検討を重ねてきました。

2 プログラムの計画期間

本ビジョンの計画期間に合わせ、平成28年度（2016年度）から令和7年度（2025年度）までの10年間を計画期間とし、5年経過した時点で必要に応じ、中間見直しを行います。（本ビジョンの一部改定作業に合わせ、推進プログラムについても各市立高等学校の検討委員会で検討を重ね、中間見直しを行いました。）

3 プログラムの概要

「国際平和文化都市」を都市像として掲げ、その実現に向けて、共助の精神を基盤とする「地域共生社会」の構築に取り組む本市は、これからの都市づくりの担い手である広島の子どもたちを「心身ともにたくましく思いやりのある人」として育成していくことを基本理念とし、基礎・基本をしっかりと身に付けることを基盤に、規範性、感性、体力、コミュニケーション能力の育成を柱とする広島らしい新しい教育を展開してきました。今後は、こうした教育を更に充実させながら、命を大切にし、平和で持続可能な社会を創造していく力を育むことや、地域への誇りと愛着を持ち、多様な人々と主体的・積極的に協働できる社会性を身に付けさせることが求められています。こうしたことから、新しい時代にふさわしく、人間力を高める高等学校教育を通じて育成する人間像を、「志高く、世界に誇れるまち広島を創造する人材」とし、具体的な人間像のイメージとして、『『ヒロシマの心』を自らのものとしグローバル社会で活躍できる人材』や「脱炭素社会の構築などの持続可能な社会づくりを担う人材」、「郷土を愛し本市を中心とした都市圏の活性化に貢献できる人材」の育成を目指すこととします。

本市では、その実現に向けて、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよ

く備えられるよう義務教育段階の取組の成果を発展させ、「全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成」と「多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな対応」について高等学校教育を進めます。

(1) 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成

全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力とその力の育成について、これまでの成果と課題を踏まえ、令和4年度からの行動計画を4～5ページに記載しています。

(2) 多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな対応

多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細やかな対応について、これまでの成果と課題を踏まえ、令和4年度からの行動計画を6～7ページに記載しています。

(3) 各市立高等学校における教育の方針（スクール・ミッション）

各市立高等学校における教育の方針を以下のア～エに記載するとともに、これまでの取組の成果と課題、令和4年度からの重点的な取組を8～23ページに学校別に記載しています。

ア 全日制課程 普通科（普通・専門コース）

- 基町高等学校 普通科（普通・創造表現コース）
- 舟入高等学校 普通科（普通・国際コミュニケーションコース）
- 沼田高等学校 普通科（普通・体育コース）
- 美鈴が丘高等学校 普通科（普通）

普通科においては、将来、多様なキャリアを形成しながら国際社会で活躍する人材や、学んだ技術や知識を生かし、地域の産業・まちづくり・観光の振興、福祉や教育の充実等の分野において、地域社会に貢献する人材を育成します。そのため、各学校の社会的役割等や生徒のニーズを踏まえた特色ある学び、地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びなどの提供に取り組みます。

さらに、普通科に設置されるコースにおいては、本市のまちづくりの方向性を踏まえ、芸術に関するコースの中に音楽のあふれるまちづくりの担い手となる人材の育成を加えることについて検討するとともに、市民スポーツの振興やスポーツを通じたまちの活力向上に資する人材の育成に取り組みます。

イ 全日制課程 専門学科（商業科・工業科）

- 広島商業高等学校 みらい商業科（流通マーケティング・観光ビジネス・広報プロデュース・金融ライフデザイン・ビジネス実務・会計マネジメント・ITエンジニア・ネットビジネスコース）

- 広島工業高等学校 工業科（機械・自動車・電気・情報電子・建築・環境設備科）

専門学科においては、地域の産業界や大学等と一体となって、地域経済の変化に即応し、製造業・サービス業等の持続的な成長を支える職業人を育成するための教育に取り組めます。

ウ 定時制課程及び通信制課程

- 広島みらい創生高等学校

定時制課程及び通信制課程においては、課程の枠組みに捉われないフレキシブルな学びを通して、多様な生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた学び直しやソーシャルスキルトレーニングなどにより、主体的にキャリアを形成していける人材を育成するための教育に取り組めます。

エ 中高一貫教育校 全日制課程 普通科

- 広島中等教育学校

中等一貫教育校においては、6年間の一貫した教育課程の中で、高度な英語教育や被爆の実相を継承し発信する平和教育等により、英語によるコミュニケーション能力や高い理想と品格を備えたグローバル・リーダーとして国内外で活躍する人材を育成するための教育に取り組めます。

(4) 教育委員会の役割

高等学校を設置・運営する教育委員会として、様々な国の支援策等を活用しつつ、市立高等学校における教育の質の確保・向上に向け、教職員の資質能力の向上、組織体制の充実、教育研究組織の活性化、高大接続改革への対応、地域・産業界との連携、教育環境の整備等を推進します。

また、20年後の市立高等学校の姿を視野に入れ、学科改編や入学定員、通学区域のほか、県立・市立・私立の機能分担の在り方について検討します。

Ⅱ 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成 （広島市ハイスクールビジョン Ⅲ 2（1）に対応）

社会・環境の変化に適応する力と地域共生社会の一員として参画し貢献する力の育成

困難を乗り越え、夢や希望に向かって挑戦する心構えとそれを継続する力を育むとともに、ものごとの本質や根源を探究し、多角的・多面的に吟味し、見定めていく力（いわゆる「クリティカルシンキング」）や創造力、情報活用能力、ICTを理解し使いこなす科学的素養など、これからの時代に適応していくために求められる資質・能力を育成する。

生徒自らが、知識・技能を活用し課題を発見して、その解決に向けて考え行動し、成果等を表現するために必要となる力を育むとともに、互いの違いや多様性を理解・尊重する態度、平和を希求する心、自分たちのまちを愛する心、他者と共生・協働するためのリーダーシップやチームワークといった資質・能力を育成する。

全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力を育成するため、3つの観点「確かな学力を育む教育の充実」「豊かな心をはぐくむ教育の充実」「健やかな体をはぐくむ教育の充実」からなる取組を推進します。

〔取組の行動計画〕

観点	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
確かな学力をはぐくむ教育の充実	新学習指導要領に対応した教育課程・教育内容の検討及び授業改善 ※観点「教育課程の編成・実施」から移動	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	新学習指導要領に対応した授業改善 ○ 一人一人の生徒が、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を拓き、持続可能な社会の創り手となることのできる授業改善 ・ 各校が目指す資質・能力を育む授業 ・ 主体的・対話的で深い学びが実現された授業 ・ 一人一台のICT端末を効果的に活用した授業			
	学力向上推進事業指定校による実践研究と成果普及		学力向上研究校の指定【重点】 ○ 指定校による実践研究と成果の普及 ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせた取組 ・ 各教科での学習を、実社会での課題発見・解決にいかしていくための教科横断的な取組 ・ 全市立学校への研究成果の普及			新たな実践研究の検討
	教育課程の編成・実施に係る実践研究 ※観点「教育課程の編成・実施」から移動					
	英語教育推進プランを実施 ※観点「グローバル人材の育成」から移動		英語教育研究校の指定【重点】 ○ 指定校による実践研究と成果の普及 ・ 英語指導助手（ALT:Assistant Language Teacher）を効果的に活用したオールイングリッシュによる授業の改善 ・ 授業内外で英語を使う場の創出 ・ 全市立学校への研究成果の普及			新たな実践研究の検討

観点	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
豊かな心をはぐくむ教育の充実	平和教育プログラムを実施	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	平和教育プログラムの実施【重点】 ○ 各学校の歴史や特色を活かした学習の実施 ・ 改訂した平和ノートを活用 ・ 被爆の実相と復興の歩みを理解 ・ 平和に関する自分の考えを発信			
	各学校における教育活動全体を通じた道徳教育を実施		道徳教育の推進 ○ 道徳教育推進教師を中心とした取組の強化 ・ 各学校で道徳教育の全体計画の見直し ・ 教育活動全体を通じた道徳教育の実施・評価・改善			
	ボランティア活動の推進 ※多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応から移動		ボランティア活動の推進 ○ 地域貢献を中心としたボランティア活動への参加促進 ・ 地域や各校の特色を活かした貢献活動への参加 ・ 各校の学校運営協議会と連携した地域貢献活動の充実			
	姉妹校提携・交流を推進 ※観点「グローバル人材の育成」から移動		国際交流の推進【重点】 ・ 全校で海外姉妹校提携を実施 ・ 遠隔・オンラインでの交流を含めた国際交流の実施			
健やかな体をはぐくむ教育の充実	心身ともにたくましい生徒を育成する教育を実施	推進プログラム中間見直し	心身ともにたくましい生徒の育成 ・ 他者との違いを共感的に受け止め、多様性を受け入れることができる生徒の育成 ・ 生徒が主体的に企画や運営に関わる学校行事の実施 ・ 性や生活習慣に関する講演等の健康教育の推進			
	相談体制・生徒指導体制の更なる充実 ※多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応から移動		教育相談体制の強化【重点】 ・ 家庭や地域との密接な連携 ・ スクールカウンセラー等の専門スタッフとの連携			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

上記の「全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成」に向けた取組を踏まえ、8ページからは各高等学校が今後重点的に取り組む行動計画を「確かな学力を育む教育の充実」「豊かな心をはぐくむ教育の充実」「健やかな体をはぐくむ教育の充実」の3つの観点を柱として記載します。

Ⅲ 多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな対応

(広島市ハイスクールビジョン Ⅲ 2 (2)に対応)

多様な生徒一人一人の可能性を伸ばすことを基本とし、そうした生徒の学びに応えられるよう、芸術・文化、スポーツ等において優れた才能や個性・特性を有する生徒に対する普通科コースの充実や、学び直しを希望する生徒に対する学習スタイルを選択できる教育の提供など、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程を編成・実施する。

学校と地域社会とが連携・協働しながら、多様な生徒一人一人に応じた探究的な学びや、実社会での課題解決につながる実践的な学びを提供できるよう、教科等横断的な視点から、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。

地域に開かれた教育活動等を通して、大学等や実社会と接続する学校として、将来の地域社会を担う生き方や働き方についての考えを深めることができるようなキャリア教育システムの構築に取り組む。

I C Tの活用や、教育相談・進路相談などの支援体制の充実に努める。

多様な生徒の学習ニーズに応じたきめ細かな対応として、3つの観点「魅力ある教育課程の編成・実施」「キャリア教育の充実」「支援体制の充実」からなる取組を推進します。

〔取組の行動計画〕

観点	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
魅力ある教育課程の編成・実施	学力向上推進事業指定校による実践研究と成果普及	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	学力向上研究校の指定【重点】(再掲) ○ 指定校による実践研究と成果の普及 ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせた取組 ・ 各教科での学習を、実社会での課題発見・解決にいかしていくための教科横断的な取組 ・ 全市立学校への研究成果の普及			新たな実践研究の検討
	教育課程の編成・実施に係る実践研究 ※観点「教育課程の編成・実施」から移動					
	高校生交換留学制度(長期/短期派遣プログラム)の拡大 留学プログラムによる成果の普及		高校生留学制度の見直し【重点】 ○ 各派遣プログラムの今後の在り方を検討(令和4年度) ○ 検討結果を踏まえた新たな高校生留学制度の実施(令和5年度から) ・ 留学の派遣先の拡大 ・ 募集人員の拡充 ・ 全市立高等学校への成果の普及			

観点	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
魅力ある教育課程の編成・実施	生徒一人一人の多様な進路に応じた教育を推進するための支援体制を充実	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	多様な生徒の学びに応える充実した取組の実施 - 学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程の編成・実施 - 多様な生徒の学びに応える普通科コースの充実・改編 - スクールカウンセラー等の専門スタッフとの連携			
キャリア教育の充実	【専門学科】 インターンシップ制度を更に充実		キャリア教育の充実【重点】 ○ 将来の地域社会を担う生き方や働き方についての考えを深めることができるよう、生徒一人一人が地域に誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献しようとする心を育む取組を充実 - 地元経済団体との連携 - 地元高等教育機関（大学、専修学校等）との連携 ○ インターンシップ制度の充実 - 専門学科 地域共生社会のものづくりやビジネス分野を担う人材の育成 - 普通科 地域共生社会を創造する人材や基盤を担う人材の育成 ○ 就職コーディネーターを活用したキャリア形成の支援 - 学校の実態や生徒の発達段階に応じたキャリア形成を支援 - 就職を希望する生徒を対象とした就職支援の充実			
	【普通科】 新たなインターンシップ制度を実施					
	学校と就職コーディネーターとの連携を推進					
支援体制の充実	相談体制・生徒指導体制の更なる充実		教育相談体制の強化【重点】（再掲） - 家庭や地域との密接な連携 - スクールカウンセラー等の専門スタッフとの連携			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

1 全日制課程

(1) 普通科（普通・専門コース）

① 基町高等学校

ア 学校教育方針

学術や芸術文化の習得と探究を通じて、高い志と未来を切り拓く豊かな創造力を持ち、国際社会に貢献する人材の育成に努める。

イ 目指すべき学校像

- すべての学校教育活動を通じて、生徒の主体的・協働的な活動の場の充実を図り、生徒の高い志を育む学校
- 知性と品格を兼ね備えた豊かな人間性を培う学校
- 組織運営や各教育活動について、不断の改善を図る学校
- 社会に開かれた学校
- 創造表現コースの専門活動や平和への取組みを通じて、多様な価値観をもった者と協働し、芸術を通して社会に貢献する意欲や態度を育てる学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 高いレベルの知識・技能及び思考力・判断力・表現力を備えた生徒
- 課題の解決に向け主体的・協働的に学ぶ生徒
- 生涯にわたって学び続ける生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 多様な価値観と文化を尊重する豊かな人間性を備え、平和を希求し、その実現のために行動する力
- ・ 高い規範意識や自己管理能力をもち、持続可能な社会の実現を目指し、課題の発見と解決に向けて努力し続ける力
- ・ 国際平和文化都市という環境を活かした表現活動を通じ、個性を磨き、社会に貢献することができる力

【10年後にあるべき姿】

- 自らの専門性を鍛え、様々な分野で人々の幸福に貢献していく有為な人

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 企画力、調整力、実行力
- ・ グローバルな視野をもった思考力
- ・ 学びを主体的に人生や社会に生かす力

エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 基礎・基本を徹底した上で思考力・判断力・表現力を高める授業、現代的な諸課題を解決する観点から自身のキャリアを考える「総合的な探究の時間」の推進により、最難関大学をはじめとした自身のキャリアに關した進路実現を果たす生徒が増加した。 ● 教師から与えられた情報にのみ満足し、新しい情報や課題、問いなどの学びに向かう姿勢が弱い。	○ 大学や企業、同窓会等と連携を重視した「総合的な探究の時間」の改善と、探究的な学びを重視した授業改善に取り組み、生徒が自身の高い志をキャリア形成に結び付け、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を育成する。
豊かな心	○ 学校行事や部活動、地域との交流活動等を整理し、充実させたことにより、主体的に行動することができる生徒が増加した。 ● 多様な価値観を持った他者との人間関係を形成するため、自己肯定感や規範意識を高める必要がある。	○ 学問の修得や芸術文化の探究を通して、世界恒久平和の実現に向けた取組や芸術文化の表現活動を世界に向けて発信する場を創出し、未来を切り開く豊かな創造力を育成する。
健やかな体	○ 心身の悩みを相談できる支援体制や生徒が自己を振り返る機会を充実させたことにより、心身のバランスを保つことができる生徒が増加した。 ● 人間関係や学習面の不安についてSNS等を通じて過剰にやり取りすることなどにより生活リズムが崩れ、体調不良を訴える生徒が増加した。	○ 睡眠や性教育等、健康や生活習慣に関する指導を充実させるとともに、性の多様性や情報モラル等をテーマとした特別活動を充実させ、心身を調整し健全に保つ力を育成する。

エ-2 創造表現コースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
創造表現コース	○ 大学や地域と連携した教育課程の実施や、生徒が自らの学習成果を発表する場の創出により、自身の専門性や適性を踏まえた進路実現を果たす生徒が増加した。 ● 更なるコースの充実に向けて学校設定科目やその学習内容を再検討し、多様なニーズに応え得る教育課程を構築する必要がある。	○ 国際平和文化都市の創造に資する人物を育成するため、市立高等学校の芸術文化の拠点として、現在主に美術分野を学ぶ創造表現コースに音楽分野を追加することを検討する。 ○ 創造表現コースの活動実績を全世界に向けて発信し、学校の学びと社会との繋がりを実感させることができる教育課程を構築する。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	総合的な探究の時間と授業の組織的な改善 全市立高校への成果普及			総合的な探究の時間 と授業改善の充実
	創造表現コースだけでなく普通科普通も含めた 世界恒久平和の実現に向けた取組や芸術文化の表現活動の世界に向けた発信			
	音楽分野の学びを追加することの検討を含めた創造表現コースの充実			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

② 舟入高等学校

ア 学校教育方針

校訓「おのれに徹して人のために生きよう」を教育活動の指針として、生徒の

- ・ 主体的・対話的で深い学びを通した高い知性と教養
 - ・ 多様性を認め自他を尊重する深い人間性
 - ・ 課題を発見し解決に取り組み新たな価値を育む創造力
- を育成する

イ 目指すべき学校像

- 多様性を認め、自他を尊重して協働できる豊かな人間性を有する生徒を育成する学校
- 主体的に学び、問いを見出し、高い批判的思考力・判断力を持つ生徒を育成する学校
- 生徒の高い志を育成し、希望進路を実現する学校
- 国内外の社会課題に関心を持ち、その解決に向けて自らが果たす役割を考えて意見を発信し、持続可能な社会の形成に参画する生徒を育成する学校
- 安全で持続可能な教育活動を全校的に進める学校
- 情報を発信し、地域や保護者と連携する開かれた学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 下に挙げる資質・能力を身に付け、「高い志」を持ち常に努力する生徒を育成する。

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 他者と協働できる力を身に付けながら、各教科・科目に関する専門的な知識・技能とそれらを関連付けたり組み合わせたりすることのできる活用力
- ・ 複雑な事象を整理・分析することにより、物事を正しく評価したり判断したりする力、自らの感情や思考などを適切に表現する力
- ・ 様々な社会課題を自分事として捉え解決に向けて取り組もうとする力、多面的・多角的な視点から自己の思考や行動を振り返り、修正しようとする力、困難な課題にも粘り強く取り組み、やり遂げようとする力

【10年後にあるべき姿】

- 各分野の専門性と経験に基づく思考を兼ね備えた、知的なリーダーとしての役割を果たす人
- 豊かな想像力と創造性を持ち、国内外において持続可能で平和な社会の形成に参画する人

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 高い志とデザイン思考を持ち、主体的に学び続ける力
- ・ 自らの思考を俯瞰する高いメタ認知能力と修正力
- ・ グローバルな視点で国内外を相互に捉え、他者と協働して、社会的な課題を解決する力

エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 総合的な探究の時間を中心に、「問い」を立て、生徒の思考力を高める授業実践が行われたことで、学びの質が高まった。 ● 上記の授業実践を幅広い教科で行うための教員研修や、生徒の立てた「問い」を評価し、主体的な学びにつなげていく研究が必要である。	○ 総合的な探究の時間で取り組んでいる「問い」を立てる力を、全教科の授業改善に応用することにより、生徒の思考力と、主体的な学びに向かう力を育成する。
豊かな心	○ 多様な集団と交流する機会や協働的な学習を充実したことで、自他を尊重し、他者と協働する姿勢が身に付いた。 ● 文化や年齢の異なる様々な集団との交流や学習を通して自己有用感を高め、自らの役割を積極的に果たしていく姿勢を育成する必要がある。	○ 本校の歴史から被爆の実相を学ぶとともに、グローバルな視点から平和を希求する心を育み、平和について自分の考えを世界に発信することができる平和教育を実施し、恒久平和の実現に向けて貢献する意欲や態度を育成する。
健やかな体	○ 生徒の心身のバランスの取れた発達を図り、目標に向けて挑戦する姿勢を育むよう、教育相談体制の充実に取り組んだ。 ● 学校教育全体を通じて、生徒の表現力や自己肯定感の育成を図る必要がある。	○ 授業や特別活動等の教育活動全体を通して、他者との好ましい人間関係を築いた上で、自分の考えを表現する場を創出する取組を行い、生徒の表現力や自己肯定感の育成を図る。

エ-2 国際コミュニケーションコースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
国際コミュニケーションコース	○ 国内外の問題に触れる機会を多く持ったことにより、社会問題に関心を持ち、自分の果たす役割について考えることができる生徒が増加した。 ● 国内外の問題を自分ごととして捉え、多様な他者と協働しながら解決する経験が不足している。また、幅広い分野の学びに取り組む意欲が低く、実社会での課題解決につながる学びに改善する必要がある。	○ 国内外で生じている課題を自分ごととして捉え解決に向けて行動する取組や、大学や海外を含めた高等学校、企業、NPO等と連携した探究的な学びを中心とした教育課程の改善を推進し、国際的素養を備えた知的なグローバル・リーダーを育成する。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	「問い」を立てることを重視した授業改善と評価の研究の推進		「問う力」を高め、自己の在り方や生き方に関する思索を深められるような授業研究の推進	
	特別活動や総合的な探究の時間を中心に平和について深めるプログラムを整備		平和の実現に向けて自分の考えを発信する取組の充実	
	大学、海外を含めた高等学校、企業、NPO等の多様な関係機関との連携の充実		国内外の課題解決に向けた探究学習プログラムの構築	
			学んだ成果を発表する機会の充実	

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

③ 沼田高等学校

ア 学校教育方針

自主挑戦

～大きな夢と高い目標をもって主体的に学び続け、果敢に挑戦する生徒の育成～

イ 目指すべき学校像

- 全ての教職員が一致協力し、生徒一人ひとりの未来を切り拓く力を引き出し、グローバル化する社会の中で活躍できる人材を育成する学校
- 教育活動のあらゆる場面で規範意識を高めるとともに、生徒の自己指導能力を育成する学校
- 生徒が誇りをもち、活力に満ち溢れ、地域から信頼される学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 習得した知識・技能を活用し、主体的に学び続ける生徒
- 感情をコントロールし、他者の立場で物事を考える生徒
- 地域や社会で多様な考えを理解し、他者と協働して課題を解決できる生徒
- 進路実現に向け、見通しをもって計画的に行動し、果敢に挑戦する生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 習得した知識・技能を活用して情報を取捨選択し、課題の解決のために粘り強く努力し続ける力
- ・ 自己肯定感を高め、他人への思いやりを持って多様な人々と協働できる力
- ・ 身近な地域や社会とつながり、地域貢献する力
- ・ 見通しをもって計画的に行動し、主体的に未来を切り拓く力

【10年後にあるべき姿】

- 変化の激しい社会の中で、見通しをもってその変化に対応するとともに、他者と協働して課題を解決できる人
- 豊かな人間性を持ち、自信をもって自分の人生を切り拓くとともに、新たな価値を創造し、地域や社会に貢献できる人

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 社会の変化に主体的に向き合って関わり合おうとする力
- ・ 多様性と伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・ 地域や社会とのつながりを踏まえ、課題を発見し、解決する力

エ-1 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 総合的な探究の時間を中心に思考力・判断力・表現力の育成を図った授業改善により、生徒は自己の課題が明確になり、解決に向けて努力する生徒が増えた。 ● 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に向けて、適切な観点別学習評価に向けた検討が必要である。	○ 生徒が自ら学びに向かう力の涵養を図るため、これまで「総合的な探究の時間」で実践してきた、課題の把握、課題の追究、課題の解決を各教科・科目の授業に取り入れ、探究的な学びを重視した授業改善を推進する。
豊かな心	○ 学校行事、生徒会活動における異校種交流やボランティア活動等の地域連携を充実させたことにより、自己肯定感が高まり、協働して課題の解決を図ることができる生徒が増加した。 ● 身近な地域を含めた社会とのつながりを実感し、地域貢献しようとする力、多様な人々と協働できる力をはぐくむ必要がある。	○ 身近な地域での異校種交流や地域連携活動等による、多様な価値観を持つ人々との交流を通して、互いに認め合い・支え合い・高め合う人間関係を育むとともに、自己肯定感や自己有用感を高める。
健やかな体	○ 体育の授業で男女共修選択制授業が定着し、運動への関心・意欲が高まり、体力・運動能力調査の結果が向上した。 ● 生徒が内面をコントロールする力をはぐくむため、学校の教育活動全体を通じて組織的に体育・健康に関する指導を行い、調和の取れた心身を育成する必要がある。	○ 心身ともにたくましい生徒を育成するため、芸術・文化、スポーツ等の各分野で地域の民間団体や大学等との連携を推進し、生徒の才能を伸ばしていくことができる体制を整備する。

エ-2 体育コースにおける取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
体育コース	○ 大学との連携により、「学び」のまとめとして集大成となる卒業研究発表会等の探究的な活動の充実を図り、生徒のプレゼンテーション能力が向上した。 ○ 専攻実技授業で高度な実技を学び、技術・体力が向上し、競技力の向上につながった。 ● 競技力の向上に加え、多角的にスポーツに関わる人材の育成に視点を置いた体育コースの充実について、関係機関と連携して検討する必要がある。	○ 一人一人の才能を伸ばすことができる魅力あるコースの具現化に向け、スポーツを通じた地域の活性化に寄与する優秀なアスリートや、高い専門性を有し学校体育や社会体育で活躍する指導者を育成するためのコース改編を実施する。 ○ 本校の体育施設を開放し、体育コースの教職員や生徒等が指導者となりスポーツ教室や指導者研修会を実施する取組等を通して、市民が日常的にスポーツに親しむことができる機会を充実させる。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	探究的な学びを重視した授業改善の推進			授業改善の更なる充実
	異校種交流・地域連携活動の更なる充実			
	体育コースの改編	スポーツを通して地域の活性化に寄与できる人材の育成		

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

④ 美鈴が丘高等学校

ア 学校教育方針

校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。

イ 目指すべき学校像

- 確かな教科学力の定着を図り、高い志を持って主体的に学びに向かう力を育成する学校
- 生徒の基本的な生活習慣が確立した規律ある学校
- 課題の解決に向け、多様な他者と協同する人材を育成する学校
- 保護者や地域・社会の期待に応える教育活動を展開する学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 自らの適性や興味・関心を活かし、正解のない問いに向き合い続ける生徒
- 地域や社会の現状から課題を見出し、その解決のために取り組み続ける生徒
- 課題解決に向けて、多様な知識・技能・特性を持つ他者と協同的に取り組み続ける生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- 基礎・基本的な知識・技能を習得し、学習したことを活用して、試行錯誤しながら課題を発見・解決する力
- 課題解決に向け、見通しを持って粘り強く取り組み続ける力
- 多様な他者の意見・考えを理解し、自己の考えを適切に伝えるコミュニケーション能力

【10年後にあるべき姿】

- 地域や社会に主体的に関わり、ボランティア活動等を通して自らの人生を豊かにする人
- 多様な他者と良好な人間関係を築き、協同して課題を解決し、新たな課題の発見・解決につなげる人
- 「地域共生社会」の担い手として、地域や社会に誇りや愛着を持ち続ける人

（社会に出て身に付けたい力）

- 社会の変化に対応し、自らの人生を豊かにするために、生涯にわたって能動的に学び続ける力
- 他者と協同し、課題の解決に向けて多面的・多角的に分析し、多様な観点から物事を捉え継続して思考する力
- プレゼンテーション能力等、考えの異なる他者に自らの考えを適切に伝える力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 主体的・対話的で深い学びの実践や協同学習の推進により、生徒の学習意欲が向上するとともに各教科における授業の満足度が高まった。 ● 生徒一人一人に応じた学習課題や学習活動を通して生徒が自己肯定感を高めることができるよう、不断の授業改善を進める必要がある。 ○ 「総合的な探究の時間」にポスターセッションによる成果発表を取り入れたことなどにより、生徒が自らの進路目標を明確にし、主体的に学び続ける力を育成することができた。 ● 地域の課題を題材とした探究活動等により、地域社会と自分の生き方や働き方をつなげる取組を検討する必要がある。	○ 各教科の授業で協同学習を核とした協働的な学びとICT機器を活用した個別最適な学びを組み合わせた授業改善に取り組むとともに、地域の課題を題材とした「総合的な探究の時間」の改善に取り組み、生徒の学力と自己肯定感を向上させる。 ○ 隣接する美鈴が丘小・中学校と連携した本校生徒が主体となって関わる校種をつないだ取組や、近隣の大学等と連携した地域の課題を専門的な見方・考え方を取り入れ解決する取組等を通して、地域社会を担う生き方や働き方についての考え方を深めるキャリア教育を実践する新たな学科への改編について検討する。
豊かな心	○ 特別活動（学校行事・生徒会活動）や部活動に生徒自身が主体的に取り組み、学校行事の改定等に関わることで、自分の考えを持って取り組む姿勢が身についた。 ● 自分の考えを持って取り組むことができる指導とともに、異なる考え方の他者を理解しコミュニケーションを円滑に行うことができる支持的風土の醸成が必要である。	○ 生徒が主体的に地域貢献活動に参加する機会を充実させ、ボランティア活動を通じた自己肯定感や自己有用感の育成を図る。 ○ 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の全体計画の見直しを行い、各教科の授業での取組や各種講演会の位置づけ等を再整理する。
健やかな体	○ 性教育や薬物乱用防止の講演会等を充実させ、関連する教科の横断的な取組や保健だよりでの情報共有により、健康に関する深い理解につながった。 ● 心身の多様な課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフとの連携を強化するとともに、教職員の研修が必要である。	○ 体力の向上や食育、安全に関する指導を、単年度でなく3年間を見据えた系統的な指導として見直し、地域社会や関係機関の協力を得ながら実践する。 ○ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学習支援アシスタント等の専門スタッフの充実や関係機関等との連携を推進し、生徒の心身の健康を支援する体制を強化する。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	協同学習とICT活用を組み合わせた実践や地域探究型「総合的な探究の時間」の実践研究 全市立高校への成果普及			総合的な探究の時間 と授業改善の充実
	新たな学科へ改編することを含めた特色ある新しい学校教育活動の推進			
	生徒の心身の健康を支援する体制の強化		専門スタッフや関係機関等との連携の推進	

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

(2) 専門学科（商業科・工業科）

① 広島商業高等学校

ア 学校教育方針

恒久平和の実現と地域社会に貢献するとともに、人と人をつなぎ、多様な力を生み出し、社会に広げる行動的な人材の育成に努める。

イ 目指すべき学校像

- 自ら課題を認識し、仲間とともに解決に向けて思考・判断し、行動できる人材を育成する学校
- 新たな価値を創造する商業教育を展開し、商業のスペシャリストを養成する学校
- 幅広い教養と豊かな人間性を育み、社会に貢献する人材を育成する学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 自らの力を試し、協働して諸課題の解決に挑む生徒
- 望ましい生活習慣を身につけ、前向きに取り組む生徒
- 将来に希望を持ち、望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に挑む生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 自らの力を試し、仲間と協働して様々な課題に挑み、その取組を振り返りながら自らを高める力
- ・ 望ましい生活習慣を身につけ、前向きに取り組む力
- ・ 将来に希望を持ち、主体的に探究し、進路実現に挑む力

【10年後にあるべき姿】

- ビジネス社会の変化を予測し、他者と協働する中で手立てや振り返りを講じながら、課題解決を推進し、地域産業や企業のみドルリーダーとして、活躍・貢献できる人

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 高等学校で身に付けた高い専門知識や技術を活かし、起業家の視点で俯瞰し、実践する力
- ・ 多様な他者と協働し、ビジネスにおける新たな価値を創造する力
- ・ 経済社会を取り巻く環境の変化に粘り強く主体的に対応する力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 1年次に商業科の基礎を徹底した上で、2年次からのコースを興味・関心や進路希望に応じて主体的に選択させたことで、各コースの専門性を活かした進路実現や高度資格取得に繋がった。 ● 技術革新・産業構造の変化、グローバル化の進展など社会の急激な変化への対応や、地域における最先端の職業人の育成を担う専門高校として、コースのねらいや学習活動を産業界と一体となりさらに充実させる必要がある。 ○ 広島市商ピースデパートでの実践的な学びを中心とした教育活動を通じて、各教科で学習した知識・技能を活用し主体的に探究学習に取り組む生徒が増加した。	○ 地元企業等との連携を強化し商業科の学びに起業家精神を取り入れて充実させる等、将来の地域社会を担う生き方や働き方について自分の考え方を深める取組を推進する。 ○ 地元企業等が有する課題の解決や新しい価値の創造に資する人材の育成に向けた、学科の在り方について検討する。 ○ 各教科での学びを総合した広島市商ピースデパートの取組に、生徒自身の生き方や働き方といったキャリア形成の方向性を関連付け、生徒が自ら課題を認識し仲間とともに解決に向けて考え行動することができる力の育成を図る。
豊かな心	○ ESDの視点での授業改善や総合的な探究の時間の体験的な学習（広島市商ピースデパートなど）におけるSDGsの取組を通じて、他者と協力する態度やつながりを大切にする態度、進んで参加する態度などを育成することができた。 ● 職業人としてのコンプライアンスを身に付けるとともに、持続可能な社会の担い手として必要な資質や価値観を育成する必要がある。	○ ユネスコスクールのネットワークを活用した外部と連携した活動にESDの視点を加えて取り組み、多様な価値観に触れる中で、相手の考え方や文化を理解する機会を充実させる。
健やかな体	○ 養護教諭やスクールカウンセラーと連携したきめ細かな指導や支援により、基本的生活習慣を改善した生徒が増加した。 ● 将来、職業人として健康でたくましく生活するために、生活リズムの調整を習慣化し、主体的かつ計画的な自己管理能力を育成する必要がある。	○ 健康の維持増進に関心を持たせ、社会情勢に対応した最適な状況判断や危機予測・回避行動を考えさせることを通し、計画的な生活リズムの調整や自主的な自己管理能力を養う。 ○ 保健体育の授業や学校行事、部活動等を通して、体力の向上を図ることに加えて、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現することができる力の育成を図る。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	地域産業界と連携し、起業家精神を取り入れた実践的・体験的な学習活動を推進			
	広島市商ピースデパートによる教科横断型・課題解決学習の推進			
	ユネスコスクールネットワークの効果的な活用方法を検討	ESDの視点を組み込んだ活動の推進		全市立高校への成果普及

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

② 広島工業高等学校

ア 学校教育方針

個人の尊厳を重んじ、豊かな人格の完成をめざすとともに、素養に富んだ工業技術者として平和と文化の創造に寄与する人物を育成する。

イ 目指すべき学校像

- 持続可能な社会の構築に貢献できる専門性や実践力を備えたものづくり人材を育てる学校
- 予測困難な社会を生きるために必要な知識・技術並びに態度が身に付く学校
- 個別最適な学びを通じて生徒一人一人が夢を実現できる学校
- 多様性を理解し命の大切さや人権感覚を身に付け他者と協働できる学校
- 生徒・保護者並びに企業・地域社会から信頼され愛される学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 基本的生活習慣と規範意識を身に付け、目的意識を持って有意義な高校生活を送る生徒
- ものづくりに情熱を持ち、幅広い学習や資格取得を通じて自己実現に取り組む生徒
- 自ら課題を見つけ、困難や失敗を乗り越えて解決しようとする生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 予測困難な社会を意識し、習得した知識・技術を表現・活用する力
- ・ 多様性を理解し、命の大切さや人権感覚を身に付け、他者と協働して課題解決に取り組む力

【10年後にあるべき姿】

- Society5.0社会において、産業構造の変化に対応する新たな知識や高度な専門的スキルを身に付け、他分野の人と協働して課題解決できる人材
- 地域産業を支えるとともに、イノベーションを牽引する人材

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 多様性を理解して自律的に行動する力
- ・ 工業分野の相互作用を活かして新たな価値を創造し、社会に貢献する力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 学習支援室での義務教育段階の学び直しや、学習内容と工業分野の資格の内容をつなげた授業改善に取り組んだことにより、基礎学力の定着や学習意欲の向上につながった。 ○ 企業や大学との連携、卒業生講話や企業説明会などを通して、生徒自らが目標を立て実践的で高度な学びに向けて努力する姿勢が身についた。 ● 企業や大学と連携し、課題研究等を通しての協働的な取組に対して教員間での温度差がある。また、技術指導を行える教員の数が少なくなってきたため、人材の育成が急務である。	○ 生徒が自ら未来社会を切り開くための資質・能力を育成するため、産官学との連携や教科横断的な教育課程の改善、学科改編等を実施し、地域共生社会のものづくり分野を担う人材を育成する。 ○ ICTを活用した個別最適な学びを中心とした授業改善に組織的に取り組むことにより、生徒の学習意欲を引き出し、粘り強く課題の解決に向けて試行錯誤する力を育成する。
豊かな心	○ 朝の読書や学校行事、地域貢献活動等において、生徒と教職員が一体になった取組や、近隣の住民とコミュニケーションを積極的に図る挨拶の啓蒙により、互いの違いや多様性を理解・尊重して行動する力を育成することができた。 ● サイエンス工房等、工業の専門的技術を生かした地域貢献活動等の取組が一部の生徒に限定されており、全学科の生徒の自己肯定感の育成につながっていない。	○ 工業の専門的技術を活かした地域貢献や社会福祉活動を充実させ、地域とのかかわりを積極的に持つことにより、命の大切さや多様性を理解し、人権感覚を身に付けて他者を思いやることができるような支持的風土を醸成する。
健やかな体	○ 養護教諭とスクールカウンセラーとの連携を通じた保健室・相談室からの情報発信や、健康管理指導によって充実した生徒の健康管理を行えている。また、養護教諭への生徒からの信頼も厚く気軽に相談できる雰囲気を作れている。 ● 生活習慣の乱れによって体調不良を訴える生徒や多様な学習ニーズを持つ生徒について、教職員全体が理解を深め支援する体制をつくることが急務である。	○ 生活習慣の乱れや多様な学習ニーズを持つ生徒について、全教職員が理解を深める研修の実施や支援を充実させる体制を構築し、全生徒が安全に安心して学ぶことができる環境づくりに取り組む。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクールビジョン 推進プログラム中間見直し	産官学との連携 教科横断的教育課程 学科改編の実施	学科改編により、生徒が自ら未来社会を切り開くための資質・能力の育成を推進		
	ICTを活用した組織的な授業改善の推進			授業改善の更なる充実
	多様な学習ニーズを持つ生徒について、全教職員が理解を深め、支援する体制の構築・充実		支援体制の更なる充実	

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

2 定時制課程及び通信制課程

(1) 広島みらい創生高等学校

ア 学校教育方針

生徒一人一人の個性を最大限に伸長させ、社会の発展に貢献できる人間性豊かな活力ある人材を育成する。

イ 目指すべき学校像

- 「生きる力」の育成を目指し、「知・徳・体」のバランスの取れた教育を実践する学校
- 社会に貢献しようとする精神を育み、公共心を持ち自立した生徒を育成する学校
- 生徒の社会的・職業的自立を促すキャリア教育を進める学校
- 地域に開かれ、生徒・保護者・地域から信頼される学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 自己の生き方や進路について主体的に探究し、目標に向かって挑戦を続ける生徒
- 他者を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる生徒
- 社会の一員であることを認識し、社会人としてのモラルやマナーを身に付けた生徒

(卒業時に身に付けておくべき力)

- ・ 基礎的・基本的な知識・技術を身に付けるとともに、自己の生き方を考えることのできる力
- ・ 他者を理解し、状況に応じてコミュニケーションを取ることのできる力
- ・ 社会で生きていくための基本的生活習慣と規範意識

【10年後にあるべき姿】

- 社会的・職業的な自立を果たし、自己の生き方を確立するとともに地域社会に貢献し、他者から信頼される人

(社会に出て身に付けたい力)

- ・ 他者と協働しながら、意見の違いや立場の違いを理解し、物事に進んで取り組む力
- ・ 現状を分析し、自己の成長のために学び続けることのできる力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 義務教育段階の学び直しや小人数指導、定通併修制度など生徒の多様なニーズに応じた教育を提供したことにより、単位修得率が年々上昇しており、生徒の卒業に向けての意欲も向上している。 ● 基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、生徒が主体的に学び、思考力、判断力、表現力等を身に付けるための授業改善を進める必要がある。	○ 各教科・科目で身に付けさせたい資質・能力の育成に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ○ 義務教育段階の学び直しを含む学習ニーズに応じた学びを提供するとともに、入学時から自分の希望する進路の実現に向けた意識付けを系統的に行い、キャリア教育の充実を図る。
豊かな心	○ 産業社会と人間において地元大学と連携し、ソーシャルスキルトレーニングを実施したことで、社会生活に必要なコミュニケーション能力の向上を図ることができた生徒が増加した。 ○ 実効性のある生徒指導体制・教育相談体制を構築したことで、生徒が抱える様々な諸問題に迅速に対応することができ、不登校傾向の生徒が減少した。 ● 社会で自立するために必要な勤労観や職業観、コミュニケーション能力を身に付けさせるためのキャリア教育を充実させる必要がある。	○ 価値観の異なる人と社会生活に必要なコミュニケーションをとることができるよう、地元大学等と連携したSST（ソーシャルスキルトレーニング）などの教育活動に取り組む。 ○ 地域に開かれた学校を目指し、聴講生制度の導入や地元地域・企業と連携した、インターンシップや商品開発などの学習活動を充実させる。
健やかな体	○ 保健主事、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ケースワーカー等と連携した保健指導、安全指導、性に関する指導などの取組により、基本的生活習慣を改善した生徒が増加した。 ● 基本的生活習慣が身に付いていない生徒もいるため、今後は、個に応じた保健指導、安全指導、性に関する指導を充実させる必要がある。	○ 基本的生活習慣を身に付けることができるよう、生徒の体力や健康状態等を的確に把握し、実効性のある保健指導や安全指導、性や生活習慣に関する指導の充実を図る。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクール 推進プログラム 中間見直し	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善の推進		授業改善の更なる充実	
	地元大学等と連携し、生徒のコミュニケーション能力を向上させる教育活動を実施			
	地域や企業と連携した実践的な学習活動の充実			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

3 中高一貫教育校

(1) 広島中等教育学校

ア 学校教育方針

中高一貫教育校として、生徒一人一人の確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、グローバルリーダーとして活躍するための基盤を育成する。

イ 目指すべき学校像

「高い志を持ち、品格を備えたグローバル人材」を育成する学校

- 変化の激しい社会に必要な知的探究能力を育成する学校
- 異なる言語を通じて関係を構築するコミュニケーション力を育成する学校
- 伝統と文化を継承する日本人としての確固たるアイデンティティを身に付けさせる学校
- 多様な考え方を調整し集団をまとめるリーダーシップを育成する学校

ウ 目指すべき生徒像

【目指すべき生徒像】

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するとともに、人間性を高め、多様な人々と協働しながら、人生を切り拓くことができる生徒

（卒業時に身に付けておくべき力）

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力を活用して、自ら設定した課題を探究し解決しようとする力
- ・ 豊かなコミュニケーション能力と、リーダーシップ、フォロワーシップをもち、目的の実現に向けて多様な他者と協働して、粘り強く挑戦する力
- ・ 我が国の伝統や文化を継承する日本人としての確固たるアイデンティティ

【10年後にあるべき姿】

- グローバル化した社会において、高い志と品格を有し、各分野のリーダーとして世界の人々の幸せのために貢献できる人

（社会に出て身に付けたい力）

- ・ 高度で専門的な素養・能力を持ち、様々な分野をつなぎ、新たな価値を生み出す創造力
- ・ 知的好奇心をもち、生涯にわたって主体的に学び続ける力
- ・ 相手の能力を引き出し、チームワークを高めるリーダーシップ
- ・ 異文化を理解し尊重するとともに、多様な人々と協働する力

エ 学校全体における取組の成果と課題および今後の重点的な取組について

分類	令和3年度までの取組の成果(○)と課題(●)	令和4年度からの重点的な取組
確かな学力	○ 6年間を通して系統的に探究活動に取り組むことができる仕組みが確立され、教育課程内外において「英語を使う場」を創出したことにより、生徒が主体的に課題解決に取り組み、思いや考えを英語で発信できるようになった。 ● 大学や専門機関といった地域との連携不足、ICT活用の遅滞、さらに各授業を課題解決型の探究的な学びを促進するものに改善できなかったことにより、生徒の探究活動を十分に支援できなかった。	○ 英語を使う場の創出として、ICT 器機を活用したオンライン交流等に取り組み、英語教育の実践研究を着実に推進する。 ○ 世界で活躍する人材を育成するため、大学や専門機関との連携を強化し、持続可能な社会の課題解決に向けて論理的・主体的に考え行動する力を育む新しい教育課程について検討する。
豊かな心	○ 異年齢の生徒が協働する平和ガイドボランティア等の行事を通して、リーダーシップやフォロワーシップ、平和な世界実現に向けて発信する意識を育成する仕組みができた。 ● 異年齢での交流の場が限定的であったため、リーダーシップの素地を養うまでに至らなかった。	○ 行事等において、学年・課程を越えた縦割り活動を充実させ、異年齢での交流機会を増やす。 ○ 平和ガイドボランティア等の行事を通して、世界恒久平和実現を希求する心を育むとともに、平和のメッセージを発信する態度を育成する。
健やかな体	○ 学校行事や体育の授業を通して、生徒がスポーツの楽しさや充実感を学ぶことができる場を提供するとともに、生徒の心身を支えることができるよう外部講師を効果的に招聘できた。 ● メンタルヘルス向上も含めた心身共に生涯にわたって健康を維持するための支援が不足していた。	○ 生徒の心身の健康を支援する体制を強化するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフや、関係機関等との連携を推進し、6年間を見据えた教育相談体制を充実させる。

オ 学校が特に重点的に取り組むこと

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハイスクール 推進プログラム 中間見直し	姉妹校とのオンライン交流の充実 I C T機器を活用した英語を使う場の創出		英語を使う場の更なる充実 研究成果の全市立学校への普及	
	大学や企業と連携した新しい探究プログラムの開発	新しい探究プログラムの実施と、専門性の高い探究活動の推進		
	S CやS S W等の専門スタッフおよび関係機関との連携の強化と、6年間を見据えた教育相談体制の充実			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

V 教育委員会の役割

教育委員会の各課が連携し、以下の取組を推進します。

推進にあたっては教育委員会内に、必要に応じて各所管課と高等学校の管理職等が連携して協議する場を適切な時期に設定し、取組を着実に進めていきます。

1 市立高等学校における教育の質の確保・向上に向けた取組

(1) 教職員の資質・能力の向上

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
「魅力ある高校づくり」のソフト面の充実に向けて、探究を中心とし、主体的、対話的な「豊かで深い学び」による授業の実現やカリキュラムマネジメントの推進のほか、教員の資質向上等に取り組む。	学習指導要領改訂の趣旨に基づき、豊かで深い学びの実現に向けた教員研修の実施	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	新学習指導要領の趣旨に基づいた指導と評価の一体化に向けた教員研修を実施【指導第二課・教育センター】			
	各種研修の更なる充実（管理職、主任・主事、経験年次、教科等の研修など）		各種研修（管理職、主任・主事、経験年次、教科等の研修など）の更なる充実【教育センター・指導第二課】			
	研究指定校による実践的授業研究と研究成果の普及		研究指定校による実践研究と全市立学校への成果の普及【指導第二課】			
	公開研究授業や校内研修会での指導・助言		各校・各教科のカリキュラムマネジメントにつながる公開研究授業や校内研修会での指導・助言【指導第二課】			

(2) 組織及び指導体制の充実

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
「魅力ある高校づくり」の一層の充実に向け、各高等学校における組織及び指導体制の充実を図る。	教職員の組織体制の充実	推進プログラム中間見直し	各校の教育課題に応じた、効果的な組織体制の構築について指導・助言【指導第二課】			
	外部人材の活用 〔SC、SSW、就職コーディネータ、体育担当指導講師、特別支援教育アシスタントなど〕		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフ活用と関係機関との連携協力体制を強化【生徒指導課・特別支援教育課・指導第二課】			

(3) 教育研究組織の活性化

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教科等の授業における指導力の向上を図るとともに、学校間の連携を充実させるため、教育研究組織体制を構築する。	校長会等との連絡調整及び教育研究組織による研究の実施	推進プログラム中間見直し	校長会等と連携し、学習評価の改善に向けた検討や各教科の教育研究組織による研究を実施【指導第二課】			

(4) 高大連携の推進及び高大接続改革への対応

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
高大連携の推進を図るとともに、「高大接続改革答申（平成26年12月）」で示された高等学校教育改革、大学入学者選抜改革（高校生のための学びの基礎診断、大学入学共通テスト等）に対応できるよう、教育の質の向上を図る。	高等学校教育改革への対応 〔次期学習指導要領への移行、アクティブラーニングの視点からの授業改善、カリキュラムマネジメントの充実など〕	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	令和4年度から年次進行で改訂される学習指導要領に対応し、授業改善や指導と評価の一体化を実現することができるよう各校を支援【指導第二課】			
	高大連携の推進		地元高等教育機関（大学、専修学校等）との連携の強化【指導第二課】			
	大学入学者選抜改革への対応 〔・高校生のための学びの基礎診断 ・大学入学共通テスト〕		既に導入された、高校生のための学びの基礎診断や大学入学共通テストについて、必要に応じて各校に指導・助言【指導第二課】			

(5) 地域・産業界との連携

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
地域・産業界との連携を図り、職業人として求められる人材の把握と育成を目指し、実践的な職業教育の充実を図る。	キャリア教育に係る実践例の整理・検討及び専門学科のインターンシップ制度の更なる充実、普通科の新たなインターンシップ制度の実施	ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し	地元経済団体との連携強化による、専門学科のインターンシップ制度の更なる充実、普通科のインターンシップ制度の充実【指導第二課】			
	学校と就職コーディネーターとの連携の推進		学校と就職コーディネーターとの連携の推進【指導第二課】			
	地域の産業界と連携した実践的な職業教育の推進		学校運営協議会を中心とした、国内外の関係機関や地域の産官学との連携協力体制（コンソーシアム）の構築【指導第二課】			

(6) 教育環境の整備

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
各学校が特色ある取組を推進できるよう、老朽化した施設設備やICT関連の施設設備の整備を検討する。	各校が特色ある教育を推進するための施設整備の検討	推進プログラム中間見直し	各校が魅力・特色ある教育を推進するための施設整備の充実【施設課・学事課・教育企画課・指導第二課】			
	老朽化した施設設備の修繕・改修		各校の老朽化した施設の修繕・改修について、計画的・効率的な施設整備を検討【施設課・指導第二課】			
	ICT関連施設設備の充実		ICTを効果的に活用することができる環境の整備【教育企画課・指導第二課】			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

2 20年後を見据えた市立高等学校の在り方の検討

(1) 学科改編等の検討

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学科・コースの改編等について検討する。	市立高等学校将来構想検討委員会（仮称）における学科・コースの改編等についての検討、学科・コースの運営	推進プログラム中間見直し	学科・コース改編を検討する場を設置し、普通科、普通科コースの見直し、専門学科の学科改編等を検討 【指導第二課・教育企画課】			
			現在主に美術分野を学ぶ基町高等学校創造表現コースに音楽分野を追加することを検討 【指導第二課・教育企画課・施設課】			
			広島みらい創生高等学校の実践を踏まえた全日制課程の生徒への通級による指導の在り方を検討 【特別支援教育課・指導第二課】			
	通級指導教室の設置に係る検討を行い、検討結果を踏まえた設置・運営					

(2) 入学定員の検討

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
各学科、コースの入学定員について検討する。	市立高等学校将来構想検討委員会（仮称）において入学定員を検討し、市域の中学校卒業生等の状況を踏まえ、必要に応じて入学定員を増減	推進プログラム中間見直し	広島市域都市圏の少子化の進展を見据えて各校の社会的役割について協議し、その協議結果を踏まえ、必要に応じて入学定員を増減【指導第二課・教育企画課】			

(3) 県立・市立・私立の機能分担の在り方の検討

検討内容	平成28～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
広島市教育大綱を踏まえ、広島広域都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定について検討する。	広島市域都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定について検討	推進プログラム中間見直し	広島市域都市圏の県市の機能分担のあり方について協議するとともに、広島県公立私立高等学校連絡協議会にて公立・私立間の機能分担の在り方について協議 【教育企画課・指導第二課】			

令和7年度：成果と課題の分析及び次期推進プログラムの策定
令和8年度：次期ハイスクールビジョン推進プログラムの実施

登 録 番 号	広 X 3 - 2 0 2 1 - 4 5 2
名 称	ハイスクールビジョン推進プログラム
主 管 課 所 在 地	広島市教育委員会事務局学校教育部指導第二課 広島市中区国泰寺町一丁目4番21号 (〒730-8586)TEL：504-2704
策 定 年 月	令和4年（2022年）3月